

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	老年看護援助論Ⅱ Advanced Gerontological Nursing			担当 教員	沼本教子（専任） 高山成子（非常勤） 高見美保（非常勤）	
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目 実践看護学	授業形態	講義とゼミ	
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室		
授業の目的及びねらい		<p>認知症の診断、評価の学習を基に、認知症のタイプ、進行度に応じた認知症者の基本的援助方法を学習し、認知症の症状（BPSD）に対する実践的援助や、集団的アプローチの実際を学び、習得する。</p>						
授業のキーワード		<p>認知症、コミュニケーション、家族支援、QOL、療法プログラム、家族の会、高齢者の人権、虐待の予知と予防、関係職種との連携・協働</p>						
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画							
① 1-2回	<p>ガイダンス 認知症を生きるということ、その生きる姿や不自由の意味を理解するための文献を抄読し、認知症を病む人の世界について学び、看護の在り方について考える。 小沢勲著『痴呆を生きるということ』岩波新書 （抄読とディスカッション）</p>							
② 3-4回	<p>大井玄著『「痴呆老人」は何を見ているか』新潮新書 （抄読とディスカッション）</p>							
③ 5-6回	<p>阿保順子著『痴呆老人の創造する世界』岩波書店 （抄読とディスカッション）</p>							
④ 7-8回	<p>3回の抄読とディスカッションをとおして学んだことをもとに、臨床経験の中で体験した認知症を病む人の看護について振り返り、看護の課題について考える。</p>							
⑤ 9-10回	<p>認知症の種類と認知症の進行の知識をもとに、実際の事例から看護の援助方法を考える。-認知症の種類と進行に関する知識を学習し、疾患の理解をすることが看護としてどのような意味があるかを考える。（非常勤講師、高山成子先生） （準備事項：自分の受け持った事例、文献に掲載されている事例を持ってくる）</p>							
⑥ 11-12回	<p>認知症者の生活行動（BPSD）としての徘徊、収集癖、攻撃行動の実際から看護方法を学ぶ。入浴場面の看護援助計画とロールプレイングを通し、アセスメント、計画、実践を学ぶ（非常勤講師、高山成子先生） （準備事項：BPSDのうちの1つの文献を学習してくる）</p>							
⑦ 13-14回	<p>認知症者に対する各種の療法プログラムとアクティビティの理念を学び、高齢者、家族への実際の取り組み報告から看護の実際を学ぶ（非常勤講師、高見美保氏） （準備事項：集団療法のうちの1つを学習してくる）</p>							
テキスト								
参考文献		<p>「わたしは誰になってゆくのか」クリステンボーデン クリエイツかもがわ 「BPSD、痴呆の行動と心理症状」 国際老年精神医学会 アルタ出版 「認知症高齢者の看護」中島紀恵子 医歯薬出版株式会社 「ナラティブ・ベイスド・メディスン」 齊藤清二ほか、金剛出版 「バリデーション」 ナオミフエイル 筒井書房</p>						
成績評価の方法	プレゼンテーションの準備、内容・参加態度（100%）							
教員から学生へのメッセージ								

認知症高齢者への理解と看護支援の具体的方法の開発は、老年看護の中でもきわめて緊急の課題となっています。認知症と共に生きる高齢者に対する看護的視点に沿って、生活行動を適切に援助できる能力を身につけられるよう、看護援助を構築できるよう学習していきましょう。